

社会工学学位プログラム（博士後期課程）における 社会人早期修了プログラム履修のための案内

【1】 社会人早期修了プログラム履修審査

社会人特別選抜によって博士後期課程に合格し、早期修了プログラムの履修を希望する者は、以下の書類を提出することによって、社会人早期修了プログラム履修審査を受けることができます。審査は原則として書類審査ですが、面接審査を行うこともあります。面接審査を行う場合には連絡します。

書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究科の「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」（システム情報工学研究科 HP の「学生生活＞社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」に掲載）を見て下さい。また、書類提出前に、指導希望教員と提出書類の内容についてよく相談して下さい。

社会人早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

次のように、Ⅰ．概要、Ⅱ．業績リスト（社工後期）と付属資料、Ⅲ．早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】、Ⅳ．博士論文の構想の4種類の書類を提出して下さい。

Ⅰ．概要

次の項目について、簡潔にまとめて下さい（1ページ以内）。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先（郵便物送付先、電話番号（携帯電話も）、FAX 番号、e-mail address を必ず記載）
- (4) 志望分野・志望教員
- (5) 修士論文作成時の専門分野（修士号保有者のみ）
- (6) 業務内容と志望分野との関わり
- (7) その他参考となる事項（業績・資格など）

Ⅱ．業績リスト

「『業績リスト（社工後期）』記載例」を参考として、A．学術的蓄積と B．業務実績に分けた「業績リスト（社工後期）」を作成して下さい（ページ数に制限はありません）。

A. 学術的蓄積

博士の学位論文の基となる「学術的蓄積」として、査読付き学術論文2編以上（筆頭著者であることが望ましい）が必要です。この学術的蓄積のリストを準備するとともに、付属資料として、査読付き学術雑誌論文別刷（コピー可）および査読付き国際会議論文（コピー可）を添付して下さい。両方合わせて代表的なもの5点以内を選んで下さい。

なお、査読付き学術論文については、採録可とされていれば、未刊行のものでもかまいません。その場合は、採録通知と原稿を合わせて添付資料として下さい。

その他に、口頭発表、依頼原稿、講演、各種講師、マスメディアへの出演などについて、区分して記載して下さい（ページ数に制限はありません）。

B. 業務実績

主な業務内容を「B. 業務実績」として各年別にリストにし、内容を簡単に説明して下さい。

Ⅲ. 達成度自己点検シート

達成度自己点検シートにおける「汎用コンピテンス」1～5の項目、および「学位Pコンピテンス」1～3について、自己評価としてA（博士の学位にふさわしいレベル）、B（修士の学位レベル）、C（学士の学位レベル）のいずれかをその根拠とともに、「コンピテンス自己点検シート【履修生用】」に、記述して下さい。いずれも具体的な事例や成果を引用しながら記述を行ってください。

「汎用コンピテンス」

1. 知の創成力

先に挙げた業績リストにおいて、新たな知の創成といえる事例を具体的に説明し、今後どう人類社会の未来に資する可能性があるかを端的に記述してください。

2. マネジメント能力

これまでの経験と学習がどのような形で俯瞰的な視野から課題を発見し、解決のための計画と実行につなげることができたかを簡潔に記して下さい。

3. コミュニケーション能力

学術的成果の本質を分かりやすく論理的に伝えた経験や、研究成果に対する質疑応答に如何に的確に対応できるかを記述ください。

4. リーダーシップ力

実務の中でどのような目標を今までに設定し、またそれを実現するためにどのようにリーダーシップを発揮されてきたかを記述ください。

5. 国際性

国際的な取り組みの経験や、十分な語学力を有することを明示ください。

「学位 P コンピテンス」

1. 研究力

業績リストの「A. 学術的蓄積」として挙げた論文等の内容に従って、博士の学位にふさわしいレベルであることを、端的に主張して下さい。論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。これまで行った国際会議でのプレゼンテーションについて、日時・場所・発表内容を簡単に要約して記して下さい。

2. 専門知識

専門知識に関わる①～⑤のすべてもしくはいずれかのステップにおいて、具体の事例において先端的で高度な専門知識とその運用能力を有していることを記載してください。特に該当する業績リストの成果を引用して記載されることが望ましいといえます。

3. 倫理感

研究者倫理および技術者倫理をどのように身に着け、実践しているかを記述ください。

IV. 博士論文の構想

1. 業績リスト（社工後期）の「A. 学術的蓄積」で挙げた論文等の内容に基づいて、学位論文執筆の構想について簡単に（2～4 ページ程度）記述して下さい。

2. 上記の学位論文の構想に基づいて、学位論文を執筆するにあたり、課題として残されている事があれば記述して下さい。

3. 関連分野についての簡単なサーベイも記述して下さい。

4. 上記の執筆にあたっては、研究の背景や問題意識、具体的なテーマと成果について、業績リスト（社工）の「A. 学術的蓄積」で挙げた論文等の内容や関連分野との関連も含めて、簡潔に記述するように努めて下さい。

社会人早期修了プログラム履修審査の内容について

「早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】」, 「業績リスト (社工後期)」などの資料を基に, 達成度評価項目別に3段階評価を行います。

- A: 博士の学位にふさわしいレベル
- B: 修士の学位レベル
- C: 学士の学位レベル

【2】 履修が承認された場合の学修について

一般の社会工学学位プログラム (博士後期課程) の大学院生と同様, 以下の20単位を履修・修得が修了要件となります。

<p>社会工学博士特別演習 I 社会工学博士特別演習 II 社会工学博士特別演習 III 社会工学博士特別演習 IV 社会工学博士特別研究 I 社会工学博士特別研究 II</p> <p>指導教員及び2名の副指導教員により以下を行う。</p> <p>論文作成に関するアドバイス</p> <p>研究計画発表、中間発表と予備審査発表</p> <p>なお、予備審査発表については、指導教員及び2名の副指導教員を含む5名以上の教員の出席と、合格評価により単位が認定されます。公開審査については、学位論文審査委員会教員の出席と、合格評価により単位が認定されます。時期については履修開始後に指示します。</p>	<p>専門科目 (必修)</p> <p>各2単位, 6科目 12単位</p> <p>注: AG ゼミ・研究発表・博士論文・QE等に相当</p>
<p>(1) 学位プログラム科目群</p> <p>社会工学ファシリテーター育成プログラム I 社会工学ファシリテーター育成プログラム II 社会工学ファシリテーター育成プレプログラム III 社会工学ファシリテーター育成プレプログラム IV</p>	<p>専門科目</p> <p>6単位以上を選択</p> <p>注: 社会工学ファシリテーター育成プログラム I, II, 社会工</p>

社会工学インターンシップ (2) 博士前期課程の科目 (3) 他研究群開設科目 (4) 学術院共通専門基盤科目 (5) 大学院共通科目	学インターンシップについては、実績を認定する事ができる。
計	20 単位以上

以上を履修することによって、予備審査時には、「汎用コンピテンス」「学位 P コンピテンス」すべての項目について A（博士の学位にふさわしいレベル）に到達している必要があります。

なお、担当教員が履修を勧める科目と履修内容は、各学生により異なる場合がありますが、いずれも達成度評価に基づき判定しますので、担当教員の指示に従って下さい。

中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム履修開始から 3～4 ヶ月経過した時点で、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】」と同じ形式の中間審査時達成度自己点検シートを提出するとともに、中間発表を行います。担当教員の指導を受けて下さい。

予備審査について

予備審査時には、次の 2 点を審査します。

(1) 「汎用コンピテンス」「学位 P コンピテンス」すべての項目について A（博士の学位にふさわしいレベル）以上であることの確認

(2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は、学位論文に着手することが認められます。

「業績リスト（社工後期）」記載例（履修希望者氏名：筑波 太郎）

A. 学術的成果

1. 査読付き学術雑誌論文（2編）
 - 1.1. $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, 筑波太郎：配送計画問題に対するメタ解法の新しいフレームワーク. $\bigcirc\bigcirc$ 学会論文誌, Vol. xx, No. xx (2011), pp. xxx-xxx.
 - 1.2. Taro Tsukuba and $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, *Heuristic Approaches for Solving Vehicle Scheduling Problem, Transportation Research, Vol. xx, No. xx (2010), pp. xxx-xxx.*

2. 査読付き国際会議論文（1編）
 - 2.1. Taro Tsukuba and $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, *An Optimization Framework for the Vehicle Routing Problem, International Workshop on Transportation and Logistics, Sydney, Australia, October (2012).*

3. 口頭発表（10件のうち国際会議3件）
 - 3.1. 筑波太郎, $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$ ：順序を考慮した配送スケジューリング問題に対するメタ解法, 第15回 $\square\square$ 学会, 2012年10月.
 - 3.2. 筑波太郎, $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$ ：ロジスティクスにおけるメタ解法と実装, 第10回 $\square\square$ シンポジウム, 2012年2月.
 - 3.3. $\times\times\Delta\Delta$, 筑波太郎：資源制限付きスケジューリング問題の最適化, $\bigcirc\bigcirc$ 研究部会, 2011年11月.
 - 3.4. Taro Tsukuba and $\times\times\Delta\Delta$, *Optimization Models for Dynamic Transportation Problems, International Symposium on Transportation and Logistics, Singapore, May 2010.*

- ...
- 3.10. $\times\times\Delta\Delta$, 筑波太郎：配送スケジューリング問題に対するメタ解法の枠組, 第 $\diamond\diamond$ 回 \bigcirc 学会, 2009年11月.

4. 発明・特許
 - 4.1. 筑波太郎, $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, 特開 2001-XXXXXXX (特願 2000-XXXXXXX)
 - 4.2. 筑波太郎, $\square\square\Delta\Delta$, 特開 2001-XXXXXXX (特願 2000-XXXXXXX)

5. 原稿依頼

なし

6. 講演・各種講師など

なし

7. マスメディアへの出演など

なし

B. 業務実績

2011年4月～2014年10月：〇〇社における原材料搬入および製品搬出スケジュールリング，サブリーダー

2012年4月～現在：〇〇社におけるトラック配送計画，リーダー

C. その他特記事項

なし